七小校長室便り

国立市立国立第七小学校
校長室便り No.5 令和３年（2021 年）9 月 13 日

「主体的・対話的で深い学び」のために

２学期が始まり、様々な制限の中での教育活動ではありますが、子供たちは、現状に負けずに自分たちのするべきことをして、自分の身は自分で守りながら、お互いを守る行動をしています。また、東京都に対する緊急事態宣言が今月末までに延長されましたが、これまでの取組を継続して、教育活動の多くが従来に近い形で行うことができるようになるまで、子供たちと一緒に状況改善のための感染拡大予防の取組を行っていきたいと思います。

現在、朝の登校時では、子供たちは開門時間（８時～８時１０分）に学校に着くように家を出て、校門のところが密にならないように、静かに距離を取りながら並んでいます。コロナ禍になる前までは、何も気にすることなく門の前で待っていたわけですから、大きな変化となっています。

また、給食の配膳時には、密にならないように時間差をつけて並ぶことや足形に沿って待つこと等、これまで以上に努力をしています。給食時には、できるだけ教室の様子を見に回っていますが、本当に黙食で静かに給食を食べている姿があります。

保護者の皆様にも、子供たちはもちろんのこと、ご家族の方々の体調によっては、登校を控えていただく等、これまで以上にご配慮いただいております。それぞれが力を合わせて協力いただいているお陰で、子供たちの学びの場での継続した取組を行うことができております。

本当に、本当にありがとうございます。感謝の言葉をどれだけ重ねても足りないくらいです。

また、この思いは、地域の皆様に対しても同様です。本校の児童を見守っていただいていることに厚く御礼申し上げます。

そして、更には、子供たちの学びを支え、日々の教育活動への熱意や工夫をもって、国立第七小学校の５０年にもわたる歴史の１頁を綴っている教職員にも感謝しています。

学校便りに「多種多様な力を合わせて」と書きましたが、「信頼と真剣さ」を基に力を合わせていくところに、「希望と勇気」の力が湧き、少しでも教育活動を前に進めていくことのできる知恵となっていくと考えます。

今、学校現場は、日々の変化に臨機応変に対応しながら、各学年に必要な力を子供たち身に付けさせるべく、知恵を出し、工夫をして、教育活動を進めています。新学習指導要領で目指している「主体的・対話的で深い学び」を私たち大人も展開しながら、大人の姿を通して子供たちに還していきましょう。引き続き、ご協力をお願いいたします。

日々の学びと向上

小学校の担任の先生方は、小学校全科の免許をもっていて、全科目を教えること、学ばせることができます。専科の先生方は、小学校全科の免許をお持ちの方もいますが、音楽や図工等の専門的な免許だけをお持ちの方もいて、その専門的教科を教えている先生方もいます。

中学校では、教科担任制ですので、それぞれの教員が専門的な免許をもち、国語なら国語、数学なら数学と、その専門的な教科を教えています。

そこで、小学校では、先生方が自分で専門的に学びたい内容があった場合に教科等を選択して、それぞれの内容に添った研究会に所属したり、研究会に参加したりして、指導力や授業力等の力を高めています。

今週末、本校では道徳授業地区公開講座を行いますが、道徳を学ぶ先生方も現在は多くなり、専門性を高めているところです。私も専門性を問われた場合には、「道徳です」と答えています。担任をしていた時に、教育研究員という東京都下の先生方が集まって学ぶグループに所属したことがあり、末席でありますが、道徳を学ぶものの一人としての自覚はあります。

本校では、５年担任の野間主任教諭が教師道場という学びの場で「道徳」の研鑽をしています。本校の道徳部主任としても努めていただいています。このように、小学校の先生方の場合は、全教科を指導していく立場にあるため、全教科を学ぶと同時に専門的な学びにも頑張っています。

子供たちに楽しく、分かりやすい授業を、充実していて達成感のある活動や取組を展開していくために、これからも努力を惜しまず努めていきたいと思います。

ESDとSDGｓ

「Education for Sustainable Development」は、「持続可能な開発のための教育」と訳されます。
日本では、「ESD」と略して使われることが多いですが、気候変動や生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、現在の世界的課題を克服していくために、教育現場においても、様々な形で学習活動に展開されています。
例えば、総合的な学習の時間では、児童自らが課題として環境問題を取り上げ、未来の自分たちの町を住みよい街としてどのように持続させていくのかを情報収集等の調査を通して探究します。そして、学んだことを発表したりして、自身の学びを拡げたり、深めたりします。理科では、過去と現在の気候の違いを通して知識を得て、現在社会が気候変動にどう対処しているかを学んだり、社会科においては、農林水産業等において、環境破壊につながらない豊かな自然の資源の活用のための取組や行動を知ったり、と学校教育の現場で様々にESDと連動した学習活動を行っています。世界的な視野をもち、未来を生きる人としての力を付けていくこと、つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育といえます。
次に、SDGs「Sustainable Development Goals」は「持続可能な開発目標」のことです。これは２０１５年９月の国連サミットで採択され、国連加盟１９３か国が、２０１６年から２０３０年の１５年間で達成するために掲げた目標です。１７の項目があり、未来の世界を発展的に持続させていくために、今、目指す目標であり、その達成のために各国、各社会、各企業等が真剣に向き合い、挑戦しています。
学校教育の中でESDを推進していく上での目標ともいえる内容であり、教育活動の中にも組み込まれてきています。未来を生きる子供たちにも必要な学びです。

校長のつぶやき

歌が歌えない・・・

前回の校長室便りに、合唱をしていたことをお伝えしましたが、今、コロナ禍の中で一番影響を受けているものの１つとして歌を歌うことが挙げられています。皆様方も昨年から様々にお聞きになっていることと思います。カラオケやコンサート等、感染を拡大させないために聴衆の前で歌うことが控えられ、オンライン配信やＳＮＳを活用した情報発信をして、自分たちに何かできることはないかと苦悩されている様子が伝わってきます。
私個人としても、とても残念です。自分がこれまで多くの経験をしてきた活動がなかなか許される状況にならないのは、本当に辛いことでもあります。私の知っている方の中には、プロで活躍されている方も多く、ミュージカルや演奏会等の公演が中止や延期になり、活動そのものが行えないことへの無念さや経済的な苦しさなど、社会に対して理解を図ろうとされているのを見ると、同じ世界を知ったものとして痛みが分かるところです。

合唱の楽しいところは、やはり同じ空間でハーモニーを奏でることによって、歌っている者同士の一体感が生まれ、「ハモる」という、言葉では言い表せない心地よい感覚をみんなで極めていくことができることです。「ハモる」という体験を知った人は、この合唱の世界からなかなか抜け出せなくなり、はまってしまいます。もちろん、好き嫌いもありますので、全ての方が同じ感じ方にはなりませんが、一度味わってみてほしい感覚でもあります。
そして、この合唱の世界が私の人生を開いたきっかけでもあります。一時期は、真剣に音楽の世界で生きていくことを考えたくらいです。私が教員として授業をしたり、また、校長として人前で話したりすることができるようになったのも、この合唱の世界で、歌を歌うことによって、自分の積極的な面が引き出されていき、様々な方々と世界的な交流もできる程になりました。

自分を変え、成長させてくれた歌が歌えない・・・。思う存分に歌が歌えるその時まで、今はしっかりと心に歌うことへの充電をしておきたいと思います。